

## 土木学会四国支部「土木紀行」No.38 ( 愛媛県 )

### 坂の上の雲ミュージアム

司馬遼太郎によって書かれた長編小説「坂の上の雲」は、近代国家として生まれ変わった明治の時代、日本国家の革命に活躍した四国は伊予(愛媛県)出身の三人の若者たちの人生を描いた物語です。その若者とは、日露戦争の日本海海戦を圧倒的勝利へと導いた秋山真之(あきやまさねゆき)、真之の兄で、後に「日本騎兵の父」と呼ばれることになる秋山好古(あきやまよしふる)と閉塞的な歌壇・俳壇に風穴を開け、日本文学に新たな地平を見出した正岡子規です。司馬遼太郎は、彼らの青春群像を、10年もの長い歳月をかけこの物語を書き上げました。この小説を読んでもと当時の松山の情景が思い浮かびます。この小説が注目を浴びるようになり、2009年末から三年間にわたってNHKでドラマ化することになりました。

坂の上の雲ミュージアムは、建築家・安藤忠雄氏が設計を担当し、平成16年12月22日着工、約2年後の平成18年11月30日に竣工しました。平成19年4月に開館して以来、40万人が訪れています。松山城周辺の歴史や文化を意識して考えられた建物で、周囲の自然環境に配慮した外観と安藤氏がイメージする『坂の上の雲』を表現した空間となっています。ミュージアムは、鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)造りの地下1階/地上4階の構造になっています。上空から見ると三角形の形になっていて、中に入って順路に沿って見学していくと、いつのまにか4階にたどりついているという不思議な建物です。外観のみならず中の構造も非常にユニークになっています。松山にきたら温泉よりもまず坂の上の雲の上ミュージアムへ訪れてみてください。

文責：愛媛大学 門田



ミュージアムを上空から見る



ミュージアム外観